

私情協 応用研修 第3分科会 1グループ  
改革行動を支援する ICT 活用と情報システム部門の役割

●改革行動を支援する ICT とは

I. 学生支援

- 「LMS」と「ポートフォリオ」により、学習支援ならびに教員とのコミュニケーションを促進する。  
⇒ただしあくまでも手段であり、「学生にとって」の視点が抜けてはいけない。
- ICTを利用して、学校に来ない学生のサポートをする  
例えば日本福祉大学は、授業評価アンケートを紙だけではなく、Web でも実施している。授業中に配る紙のアンケートのほうが回収率は高いが、Web アンケートの場合、「授業に来なくなった」学生の声を拾える。来なくなった理由を分析したところ、「履修のミスマッチ」が多かったため、履修ガイダンスの動画コンテンツをつくり、在学生は3月から授業内容を確認し、4月の履修登録に臨めるようになった。
- 最近増えてきた「WEB 出願」  
受験生の手間が減り、受験料割引など金額面でのメリットもある。  
外国人留学生の、海外からの出願の手間は大幅に減る。  
⇒職員にとっては読み合わせや、外国人の読みにくい字を確認する負担が減る。
- 「フェイスブック」や「LINE」などの、ソーシャルなサービス  
自分から情報を取りに行かないといけないホームページと比べて、フェイスブックやLINEだと自分に流れてくる情報量が違う。  
⇒大学として投稿のルールや炎上対策が必要。

II. 教職員支援

- 教員間、教職員間、教員学生間のコミュニケーションを支援する ICT。
- 使わない教員をいかにサポートするか。  
全学展開をせずに、一部の学部を対象に割り切ることも時には必要。

III. 保護者サポート

- 従来の保護者懇談会や成績表送付のほかに、ICT でサポートできることが出てきている。  
たとえば、保護者が息子/娘の成績や出欠情報を確認できるシステムもある。  
「家を出たけど、授業に出ていないのでは」という学生をトレース(追跡)できる。  
⇒大学に来ている学生、面談してきた学生の記録は追える。  
今後は、学生がドロップアウトする前に、“いかに予見するか”という視点も必要。(IR の一つの形態)

#### IV. OB・OG

- ・「フェイスブック」などのソーシャルサービスにより、卒業生との関係を維持しやすくなった。
- ・「クレジットカード募金」サービスの普及も進んでいる。

#### V. BCP(事業継続計画)・緊急時対策

- ・メールに代表されるように、大学での「クラウドサービス」は増えてきた。
- ・外部移管が進めば、法定停電によるサービス停止は減る。  
ただし、個人情報の取り扱いなど、学内の規程・ルール作りは必要。
- ・東日本大震災後に問われているのは、緊急連絡・安否確認。  
学生の連絡先アドレスを全て把握するのは難しいが、「緊急連絡をやってますよ」という姿勢が大事。

#### VI. 外字の対応など

- ・外字をやめる学校も出てきているが、学生にとっては不満足になることも。  
学校や職員にとってよいことが、学生にとって悪いことになることもある。  
「都合の話」には気をつけないといけない。

#### ●今後の情報システム部門の役割とは

##### ○橋渡し

大学のユニバーサル化やグローバル化により、内部構成員は多様化してきた。  
情報システム部門はその橋渡しとなるとともに、ときには教員に対して「No」と言うことも必要である。

##### ○学内外の調整

クラウドやスマートデバイスの普及など、ICT 環境は急速に変化してきている。  
情報システム部門は、「学内の論理」だけでなく、「外の意見」も聞きつつ、  
学生や教職員の利便性や生産性を向上させる、ICT 環境を構築し続けなくてはならない。

##### ○ガバナンス支援

教育や就職もさることながら、研究費不正執行やハラスメント、さらには大学の国際競争力など、  
大学に対する「社会からの目」は厳しくなっており、今後の ICT 部門は、  
大学のマネジメント/ガバナンス/コンプライアンスを強化する活動も求められる。

以上